音楽科学習指導案

日　時　平成26年５月30日（金）　第２校時
対　象　１年１組（男子20名女子20名　計40名）
指導者　教　諭　　徳　永　賢　子

1　題材　「日本の民謡に親しもう」

2　指導目標

(1)　我が国の民謡の特徴に関心をもたせ，表現や鑑賞の学習に意欲的に取り組もうとする態度を育てる。

(2)　音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す雰囲気を感受しながら，音階やリズムの特徴を生かした音楽表現を工夫させ，どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもたせる。

(3)　創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて，我が国の民謡の特徴を生かした旋律を創作させる。

(4)　我が国の民謡の特徴を知覚・感受し，その民謡が生まれた背景と関連付けながら味わって鑑賞させる。

3　題材の評価規準

(1)　言葉や音階などの特徴に関心をもち，表現や鑑賞の学習に意欲的に取り組もうとしている。

(2)　我が国の民謡の音階やリズムを知覚し，それらの働きが生み出す雰囲気を感受しながら，音階やリズムの特徴を生かした音楽表現を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。

(3)　言葉や音階などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて，我が国の民謡の特徴を生かした旋律をつくっている。

(4)　我が国の民謡の特徴を知覚・感受し，音楽の特徴をその背景となる文化や歴史と関連付けながら味わって聴いている。

4　教材

日本各地の民謡
「ソーラン節」「金毘羅船々」「ようかい」「鹿児島おはら節」「谷茶前」

5　題材について

(1)　題材設定の理由

国際化が進展する今日，我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を深め，我が国の音楽文化に愛着をもつとともに，諸外国の音楽文化を尊重する態度の育成が求められている。本題材は学習指導要

領の第１学年の目標と内容の２・内容Ａ表現(3)ア「言葉や音階などの特徴を感じ取り，表現を工夫して簡単な旋律をつくること。」，Ｂ鑑賞(1)ウ「我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り，鑑賞すること。」を柱にし，鑑賞や創作の活動を通して，日本の民謡に親しませ，我が国の音楽文化に対する理解を深めることを目指して設定した。

また，学習指導要領の趣旨の中では，合唱や合奏など全員で一つの音楽を創っていく体験を通して，表現したいイメージを伝え合ったり，協同する喜びを感じたりする指導を重視することが示されている。音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す雰囲気を生かした旋律づくりを試行錯誤し合う活動を取り入れながら，本題材を進めていきたい。

(2) 教材について

日本の各地に伝えられている民謡は，昔の労働や風習，行事など生活に密着したものが多く，我が国の古い文化を今に伝えている。日本の代表的な民謡や郷土の民謡を教材として用いることにより，使われている音階の雰囲気を感じ取らせながら民謡の特徴を理解させ，日本の音楽のよさを味わわせることができる。

○ 「ソーラン節」（北海道）

北海道では，江戸時代から大正時代にかけてニシン漁がとても盛んであり，漁の時に歌われる作業歌が数多くあった。「ソーラン節」はそのうちの沖揚げ音頭であり，ニシンを運搬船に移す作業時に歌われた。リズミカルな掛け声が特徴的であり，気持ちを鼓舞するために歌った仕事歌として生徒に理解させやすい曲である。

○ 「金毘羅船々」（香川県）

古くから海上交通の守護神として信仰される金毘羅大権現をテーマにしたもので，主に宴会の席での遊び歌として広まっていった。「シュラシュシュシュ」という言葉がたびたび現れるが，これは金毘羅船が追い風を帆に受けて，波の上を穏やかに進んでいく様子を歌っている。フレーズが繰り返されるのが特徴で，民謡の軽やかさ，楽しさを味わわせることができる。

○ 「ようかい」（鹿児島県・種子島）

古くから種子島全島で歌われ，親しまれている。ゆったりとしたテンポと言葉の抑揚が子どもを寝かしつける際の子守歌としての特徴を理解させやすい。県内の歌とはいえ，島の方言による歌詞は難解ではあるが，素朴な美しさを味わわせることができる。

○ 「鹿児島おはら節」

速いテンポ，軽快なリズム，明るく楽しい節などが曲の特徴として挙げられる。鹿児島の名所や偉人，食文化などが登場する歌詞であり，毎年鹿児島市で開催される「おはら祭り」の踊り歌として，地元で親しまれており，生徒が興味をもって鑑賞できると思われる。

○ 「谷茶前」

谷茶は沖縄本島の中央に位置する恩納村の谷茶地区を指す。三線の躍動的なリズムにのって歌われる踊り歌で，沖縄音階によって生み出される独特の味わいが感じ取られる曲である。

(3) 生徒の実態について

今回の学習に取り組むに当たって，生徒の音楽に対する実態の一面を知るために，次のようなアンケートを実施した。

（4月18日　男子20名，女子20名　計40名　実施）

1　ペアやグループの活動について

好き・どちらかというと好き…38名　　嫌い・どちらかというと嫌い…2名

2　日本の民謡について

(1)　聴くことが好き・どちらかというと好き…25名　嫌い・どちらかというと嫌い…15名

〔理由〕（自由記述）
・聴いていると落ち着く
・いろいろな種類があって楽しい
・日本独特の感じがおもしろい
・テンポがゆったりしている
・いろいろな曲を知ることが楽しい
・日本の文化を知ることができる
・リズミカル

〔理由〕（自由記述）
・つまらない
・一つ一つの音が長い感じがする
・地域独特な感じがあり，歌いにくそう
・テンポが遅い
・盛り上がらない
・よくわからない
・なじみがない

(2)　実際に演奏の経験がある…18名　演奏の経験がない…22名

3　創作の活動について

(1)　小学校時の創作活動の経験

ある…33名　　ない…7名

〔内容〕（複数回答）
・打楽器でリズムをつくる…19名
・手拍子でリズムをつくる…23名
・言葉にふしをつける…4名
・主なふしにかざりのふしをつける…4名

(2)　(1)で「ある」と答えた人

創作は好き・どちらかというと好き…17名　創作は嫌い・どちらかというと嫌い…23名

〔理由〕（自由記述）
・楽譜を書くのが苦手だが，できた時がうれしい
・楽譜を読むのが得意
・自由にふしをつくるのが楽しい
・リズムをつくるのが楽しい
・つくった曲を演奏するのが楽しい

〔理由〕（複数回答）
・ふしが思い浮かばない（13名）
・リズム打ちがうまくできない（2名）
・音符や休符の長さがわからない（5名）
・記譜するのが苦手（12名）

本学級の生徒は，入学以来，朝の会や帰りの会において積極的に歌っている姿が見られ，表現活動への意欲が高い。また，学級で話し合い活動の機会を意識して設けているため，ペアやグループ活動への抵抗が少なく，協力して学習に取り組もうとする雰囲気がある。

日本の民謡については，これまでに約半数の生徒が演奏を経験しているが，どのような音楽が日本の民謡であるか理解できていない生徒も多い。小学校での学習経験の差が興味・関心の差につな

がっていると考える。

創作の活動については，約８割の生徒が小学校で経験している。内容はリズム創作が主であり，旋律づくりの経験は少ない。記譜に苦手意識をもっていたり，音符の長さの割合の理解が十分でなかったりする生徒が多いため，記譜にこだわらない旋律づくりやリズム譜の活用等，創作活動に取り組みやすい手立てが必要である。また，１年生の早い時期に創作活動を通して，音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて理解させることは，これからのすべての音楽活動の支えになると考える。

以上のことから，本題材において各地の民謡を比較鑑賞したり，歌ったりすることで，民謡の多様性を理解させ，民謡の音階を用いた創作活動を通して日本の民謡に親しませたい。また，小学校で慣れ親しんだ鍵盤ハーモニカを用いることで，音を限定し，演奏しやすい音域で旋律をつくり，グループで協力して曲を仕上げる活動を通して，創作の楽しさを味わわせたい。

(4) 指導に当たって

生徒の実態を踏まえ，本題材を扱うに当たり，次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

ア　グループでテーマに沿った旋律を工夫する活動を通して，仲間と共に音楽を創り上げる喜びを感じさせ，創作活動への興味・関心を高めさせたい。

イ　各地の民謡を比較鑑賞させたり，歌唱させたりすることで，知覚・感受を深めさせ，音楽表現の工夫につなげたい。

ウ　音階の構成音によって音楽の雰囲気が変わることに気付かせ，日本の音楽の多様性を感じさせると共に，♯や♭のない五音音階を用いることで，鍵盤ハーモニカで演奏する抵抗をできるだけ少なくし，基礎的な表現の技能を高めさせたい。

エ　民謡のよさを伝える文章をまとめることによって，鑑賞する力を高めさせたい。

6　指導計画（全４時間）

時	主な学習活動	教材	単位時間における評価規準			
			音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	1　日本各地の民謡を聴いたり，模倣したりして特徴を感じ取る。 2　リズム，旋律，音色などの特徴を話し合い，ワークシートに記入する。 3　特徴から，タイプ別に民謡を分類する。	各地の民謡	日本の民謡の特徴に関心をもち，主体的に学習している。			声の音色，リズム，旋律など民謡の特徴を知覚・感受して，曲全体を味わって聴いている。
2（本時）	1　構成音の違いによる雰囲気の違いを感じ取る。 2　我が国の民謡にはいくつかの音階があることを知る。 3　民謡の音階を使って，提示されたテーマに基づいた旋律をグループで創作する。	創作曲	民謡の音階の構成音の違いに関心をもち，音階の特徴を生かして旋律をつくる学習に主体的に取り組んでいる。	民謡の音階を知覚し，その働きが生み出す雰囲気を感受して，工夫してどのように旋律をつくろうという思いや意図をもっている。	民謡の音階を用いて，表現したいイメージとかかわらせて旋律をつくる技能を身に付けている。	
3	1　創作した旋律をグループで練習し，表現の工夫をする。 2　発表し，批評し合う。	創作曲		イメージとかかわらせて音楽表現を工夫し，つくった旋律をどのように演奏するかについて，思いや意図をもっている。	つくった旋律を演奏する技能を身に付けている。	他のグループの演奏を聴き，表現の工夫を聴き取ることができる。
4	1　民謡の音楽的な特徴とその民謡が生まれた背景とを関わらせながら，味わって鑑賞させる。 2　民謡のよさを伝える紹介文を書く。 3　紹介文を発表する。	各地の民謡	民謡の生まれた背景や音楽的な特徴に関心をもち，学習に主体的に取り組んでいる。			民謡の生まれた背景や音楽的な特徴を感受し，よさを紹介文にまとめることができる。

7　本時の実際（２／４）

(1) 指導目標

ア　民謡の音階の構成音の違いに関心をもたせ，音階の特徴を生かして旋律をつくる学習に主体的に取り組ませる。

イ　民謡の音階の特徴を知覚・感受させ，表現を工夫して音楽をつくらせる。

ウ　民謡の音階を用いて，表現したいイメージとかかわらせて旋律をつくる技能を身に付けさせる。

(2) 評価規準

ア　民謡の音階の構成音の違いに関心をもち，音階の特徴を生かして旋律をつくる学習に主体的に取り組んでいる。

イ　民謡の音階を知覚し，その働きが生み出す雰囲気を感受して，工夫してどのように旋律をつくろうという思いや意図をもっている。

ウ　民謡の音階を用いて，表現したいイメージとかかわらせて旋律をつくる技能を身に付けている。

(3) 授業設計上の工夫

ア　音楽的な感受を深め，根拠をもって批評する力を高める指導の工夫

(ア)　比較鑑賞・比較表現の工夫

音階を変えた「かえるの歌」を聴き，曲の雰囲気は構成音の違いによるものであることに気付かせ，日本固有の音階を理解させる。焦点化した比較聴取をすることによって，音階の特徴を捉えやすくし，知覚・感受を深めることができるようにする。

イ　協働的な活動を生かした授業展開・指導法の工夫

(ア)　協働による創造的な音楽活動を充実させるための学習過程

授業展開において，表現したいイメージを話し合い，イメージに合った旋律づくりを創意工夫させ，創った音楽を発表し，批評し合う活動を協働的に取り組ませる。本時では，イメージをもつ「見いだす」活動，表現を工夫し合う「ひろげる」活動をグループで行わせる。個人でもちよったアイデアを「よりよい旋律づくり（その１）のための４つのポイント」を活用しながら，グループでよりよい音楽に練り上げる協働的な活動を充実させたい。

(イ)　伝え合う場の設定

協働で取り組む中で，互いのアイデアを伝え合う場を設定する。本時では，個人でつくった旋律をイメージに合っているか，どう工夫しているか互いに聴き合い，批評し合うことで，視点が広がり，よりよい音楽づくりを工夫することができるようにする。

(4) 展開

時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点（◆は評価の観点）
7分	1　前時の学習内容を振り返る。 2　構成音の違いによる雰囲気の違いを感じ取り，日本特有の音階を理解する。	一斉	○　民謡の特徴を振り返らせる。 ○　音階を変えて「かえるの歌」を演奏し，曲の雰囲気は構成音の違いによるものであることに気付かせる。 ◆　評価ア・イ ○　演奏しやすい音域の民謡音階・沖縄音階を示す。 ○　音階を鍵盤ハーモニカで確認させ，特徴を体感させる。
3分	3　本時の目標と学習の流れを把握する。 民謡の音階を使って「附中かえる（帰る）の歌」をつくろう	一斉	○　本時の目標と学習の流れを理解させる。 ・　本時は，民謡の音階を使って２小節分の旋律をつくり，グループで組み合わせて曲にまとめる活動を行うことを理解させる。
30分	4　提示されたテーマに基づいて，グループでどのようなイメージの曲をつくるか話し合う。 5　選んだ音階を使ってイメージに沿った２小節分の旋律をつくる。 6　それぞれが創作した２小節をグループで話し合いながら組み合わせ，４分の４拍子８小節の旋律をつくる。	グループ 個人 グループ	○　記譜に際しては，苦手意識をもつ生徒も多いことを考慮し，五線紙に記譜させることにこだわらないようにする。 ○　４分の４拍子のリズム譜を参考にさせる。 ○　グループで旋律を工夫できるよう，構成やリズム等の音楽を形づくっている要素に焦点をあてた「よりよい旋律づくり（その 1）のための４つのポイント」を示す。 ◆　評価ア・イ・ウ
10分	7　曲が仕上がったグループの発表を聴く。 8　次時の予告を聞く。	一斉	○　練習時間が十分でないグループは代表の演奏や，部分的に演奏をするなど，発表形態を配慮する。 ◆　評価ア ○　次時は，つくった旋律に更に表現の工夫を加え，発表し合うことを予告する。